

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
28-5	アジア都市における‘場’の機能を持った道路設計・運用に関する研究開発	横浜国立大学 教授 中村 文彦	B
<p>＜研究の概要＞</p> <p>日本を含むアジア都市における交通結節点徒歩圏の道路空間を、都市活動の拠点となる「場（Place）」として改善する設計・運用方法を構築する。そのために 1)現況の利用実態の特徴と課題提示、2)都市活動特性に応じた設計・運用技術提案、3)実証実験による評価を行う。</p> <p>＜中間評価＞</p> <p>アジア都市における現地調査結果を活用した技術パッケージの開発が進められているが、実務で必要となる法的背景の検討や技術パッケージの有効性の検証等の課題が残されていることから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>＜今後の研究計画・方法への指摘事項＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>タイ・コンケン市のケーススタディは、文化人類学的研究になっているように見受けられる。道路政策の質の向上に資するものとするには、これらの現象の背景となる法的（道路法・道路交通法）背景などについても詳細な検討が必要である。</li> <li>技術パッケージは、共通で採用すべき内容とオプションを明確に区分けしてとりまとめたいただきたい。また、提案だけでなく、その有効性の検証にも注力していただきたい。</li> <li>実証実験においては、定量的データの取集に限定せず、実験プロセス自体の記録を動画などでわかりやすく取りまとめることが、事例ベースの価値の提示として有効と考えられるので、記録性も重視することが望まれる。</li> <li>バンコク、旭川といった「ケース」での研究を無理に一般化せず、「ケーススタディ」として論点を明確にした形でまとめた上で、今後適用できそうなケースを国内外で例示して、各地で進むまちづくりのヒントとしての情報を提供するのが望ましいのではないかと。</li> <li>エネルギーハーベスティング技術と本研究との関係が依然として不明確であり、それを使う必然性に疑問がある。エネルギーハーベスティング技術の位置づけを再検討していただきたい。</li> </ol>			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。